

伊勢を創った
太田小三郎？
ご存知ですか？

伊勢を創った太田小三郎シリーズ

第1回 小三郎は伊勢で何を創ったのか？

第2回 小三郎は伊勢をなぜ創れたか？

(小三郎は三条実美の隠密だった？)

第3回 小三郎が創った伊勢の「参宮鉄道」

第4回 小三郎が創った伊勢の「路面電車」

太田小三郎ってどんな人？



前回お話しましたが・・・小三郎の実績

全国的な敬神団体「神苑会」を組織して、
新しい明治日本の総本社として伊勢神宮をリニューアルした

(1) 荘厳な参詣環境の整備

神苑 徴古館 農業館 御物撤下陳列所 賓日館

(2) 全国につながる参詣交通網の整備

参宮鉄道 路面電車 御幸道路

(3) 参詣を迎える神領民の向上（産業の育成）

宮川電気（発電） 山田銀行 学習討論結社「交修社」
お祓い大麻の製紙 兼 活版印刷業「殖産組」

小三郎 なぜ伊勢に？・・・伊勢度会人物誌よると

系譜 鷹羽寿一郎の三男 本名 鷹羽匡一 豊前国(福岡県)英彦山生まれ 住所 古市
江戸時代末期1846弘化3年(間違いでした！1845弘化2年)生～1916大正5年没
享年72歳 墓地 久世戸蝮尾

家は累代豊前彦山(霊仙寺)の執当職で、

家兄浄典は幕末勤皇の大義を唱え(勤皇の志士)遂に之に殉じた。

小三郎沈毅果敢、濟世の志を有し、少時豊後日田広瀬青村の門に学び、

王政中興京都に入り・・・尊王倒幕＝王政復古活動中、京都に行って

三條相國(国政を補佐する最高位の人)の知遇を受け、・・・三条実美と知り合って

明治5年、同家(三条家)の用務を帯び鳥羽藩に至る・・・実美の命令で鳥羽藩に行った

の途、初めて神宮に参拝したが、

宮垣の咫尺しせき(僅かな距離)に肆塵してん密接し、烟塵えんじん (煙やほこり) 叢襍そうざつ (いろいろあって) するを見て、

深く其の尊嚴をするを憂へ、慨然として廓清の志あり、・・・神宮をきれいにしたいと考えて

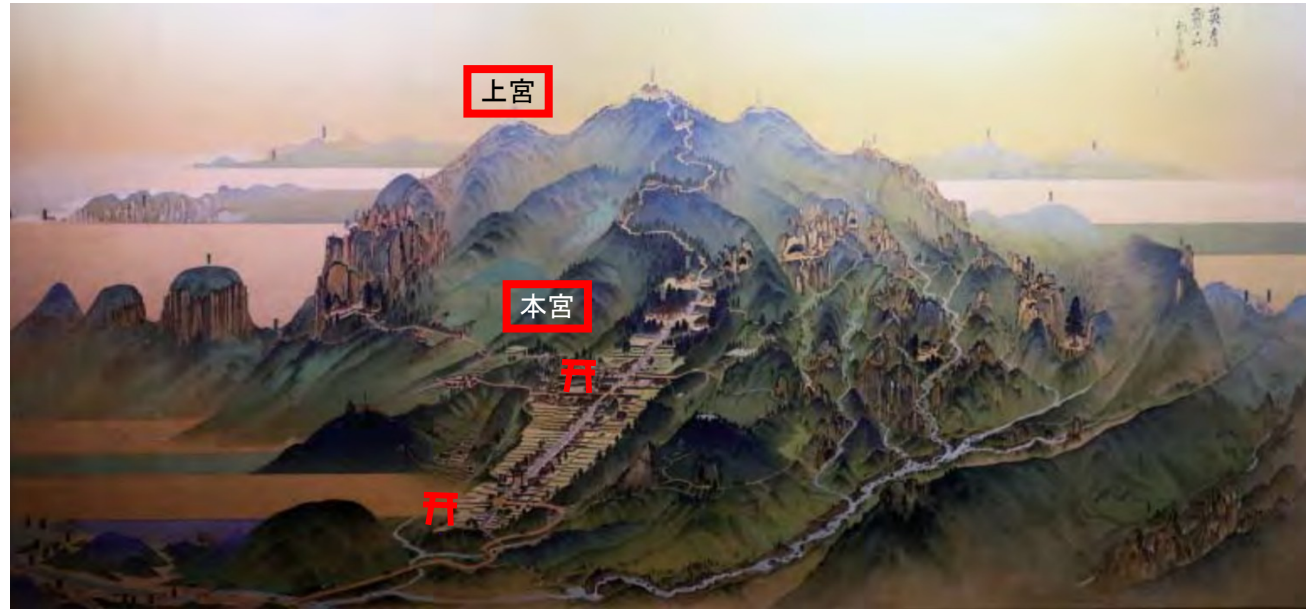
其後遂に居を山田に定め、・・・明治5年後、山田に住んだ

同志者大岩芳逸、村井恒蔵両氏と共に拮据年を累ね條画粗成り、

後、縁あって備前屋太田氏の嗣となった。・・・明治5年後≠明治5年に備前屋に入籍

九州生まれの小三郎(匡一)がどうして「伊勢」で活躍する事になったのか？

1845弘化2年 太田小三郎、豊前国英彦山「靈仙寺」の座主執当役の三男「鷹羽匡一」として誕生
英彦山とは日本三大修験山(大峯山(奈良県)、大山(鳥取県)、羽黒山(山形県))の霊場だった「靈仙寺」



現在の本 宮



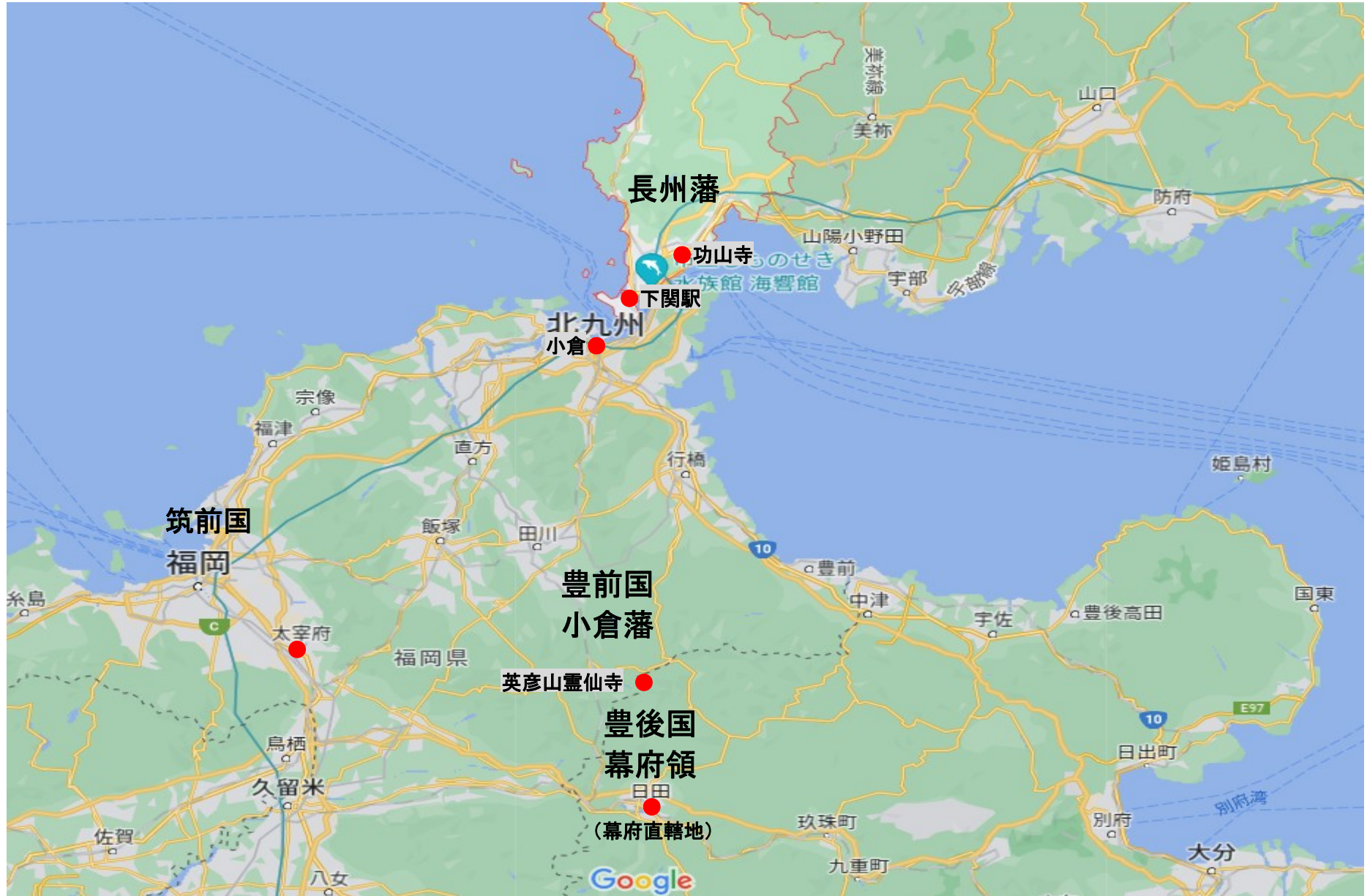
上 宮



上 宮 拝 殿

「靈仙寺」座主高千穂教有きょうゆうの母は関白一条忠良ただよしの息女(皇族の出)で
三条実美の祖父公修きんおさの養女(実美とは叔母と甥の関係)＝尊王思想
実美の尽力で明治元年神仏分離令により「英彦山神宮」に改称

英彦山「靈仙寺」の位置関係



小倉藩は初代藩主の母が家康の孫で西国譜代大名の筆頭として幕臣中の幕臣であった

1858安政5年(13歳)頃 豊後日田「咸宜園かんぎえん」の広瀬青村に儒学を学ぶ

「咸宜園」は儒学者・広瀬淡窓が豊後日田に開いた日本最大規模の私塾で、江戸時代から1897明治30年閉塾するまで多くの偉人を輩出

広瀬青村(邨) ひろせ せいそん

文政元 1818～明治17年 1884 66歳

幕末・明治の書画家「淡窓」の義子

本名:矢野範治、字:世叔

淡窓の門で学び、詩を能くし、書にも優れ、
画にも巧みで蘭竹を好んだ。

広瀬淡窓 ひろせたんそう

天明2年 1782～安政3年 1856 74歳

諱いみな 生前の実名だが口にすることはなかった:建

字:廉卿、子基 号:淡窓 青溪

儒学者、漢詩人、教育者

筑前国の亀井南冥、昭陽父子に師事

豊後国日田に日本最大級の私塾を開いた

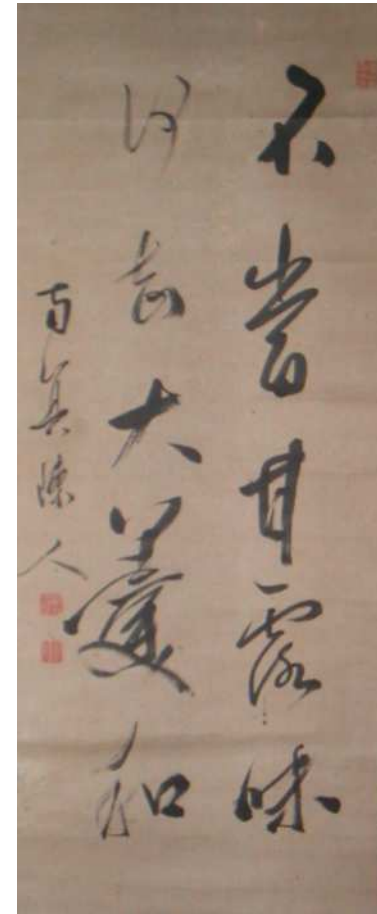
私塾「桂林荘」のちの「咸宜園かんぎえん」

文化2年 1805～明治30年 1897

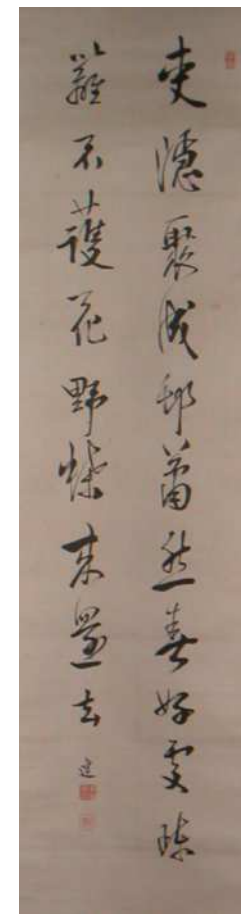
弟の子孫 広瀬正雄:日田市長・衆議院議員

その子 広瀬勝貞:大分県知事

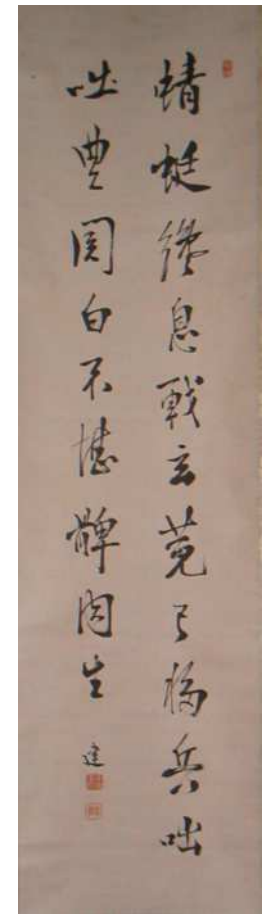
亀井南冥→広瀬淡窓→青村→小三郎



亀井南冥



広瀬 建



(亀井南冥)不當甘露味 何知大羹あつもの和

(広瀬 建 1)吏隠聚成邨蕭然春好處疎 籬まがき不護花野蝶来還去

(広瀬 建 2)蜻蜓せいてい(飛ぶ範囲が広い)終息戦玄菟メン己移兵咄しかる 咄豊関白不堪髀もも肉生

元服は一般的に12～16歳→1862文久2年(17歳)頃、活動開始か？

(ついでですが)常時備前屋は家業殷盛を極めたれど内には負債山積して居たので、彼は曩き^{ささき}(以前)に日田県令たりし**松方公の知遇を受け**、その後援により養家の整理を図り桔据十余年(明治18年(40歳)前後か?)にして家運を挽回した

松方正義

- 1835天保06年 **薩摩生まれ**で幼時、尊皇思想を育み島津久光の側近となった大久保利通との親密な関係が明治以降、松方が政府の中で大きな役割を果たすキッカケとなる
- 1868明治元年 小三郎が学んだ私塾「咸宜園^{かんぎえん}」がある日田県が設置
慶応4～明治3年日田県知事に就任(大久保の推挙)
英彦山は日田県の直轄地となる
- 1870明治03年 民部大丞・租税権領に就任し中央政府へ栄転、大蔵省官僚として財政畑を歩んだが財政方針を巡って大蔵卿大隈重信と対立
- 1877明治10年 パリ万国博覧会開催
「紀尾井坂の変」で暗殺された大久保の代わりに総裁を務める
- 1881明治14年 大隈が失脚し、代わって参議兼大蔵卿に就任
- 1882明治15年 中央銀行として日本銀行を創設
- 1885明治18年 **内閣制度が確立、第1次伊藤内閣において初代大蔵大臣就任**
- 1888明治21年 黒田内閣で大蔵大臣、内務大臣を兼任
- 1891明治24年 第1次山縣内閣が倒れ**第4代内閣総理大臣兼大蔵大臣に就任**
- 1896明治29年 第2次松方内閣組閣 **第6代内閣総理大臣兼大蔵大臣に就任**

松方が行った財政政策や官営模範工場の払い下げなどによって財政収支を大幅に改善させインフレを抑制したが、深刻なデフレ「松方デフレ」を招いて世論の反感を買った



初・3・5・8代大蔵大臣
第4・6代内閣総理大臣
第6・7代大蔵卿
第5代内務大臣

(話は戻りまして・・・)

明治維新勃発の背景

明治維新の発端は

小三郎が生まれる12年前

1833天保4年だった

8代将軍吉宗の曾孫 いえなり

いえよし

1837天保8年 11代家斉が12代家慶に譲位したが「大御所政治」を継続



徳川政権の安定期・・・安穩としていたか？

1833～9天保4～10年「天保の大飢饉」(内憂)



寒冷化が原因

江戸時代の三大飢饉の一つ: 享保の飢饉(1732年)、天明の飢饉(1782～8年)ほぼ50年周期

1837天保8年「大塩平八郎の乱」(内憂)



飢饉を背景に幕府の不正や役人の腐敗に、大坂町奉行所の元与力大塩平八郎が反乱した

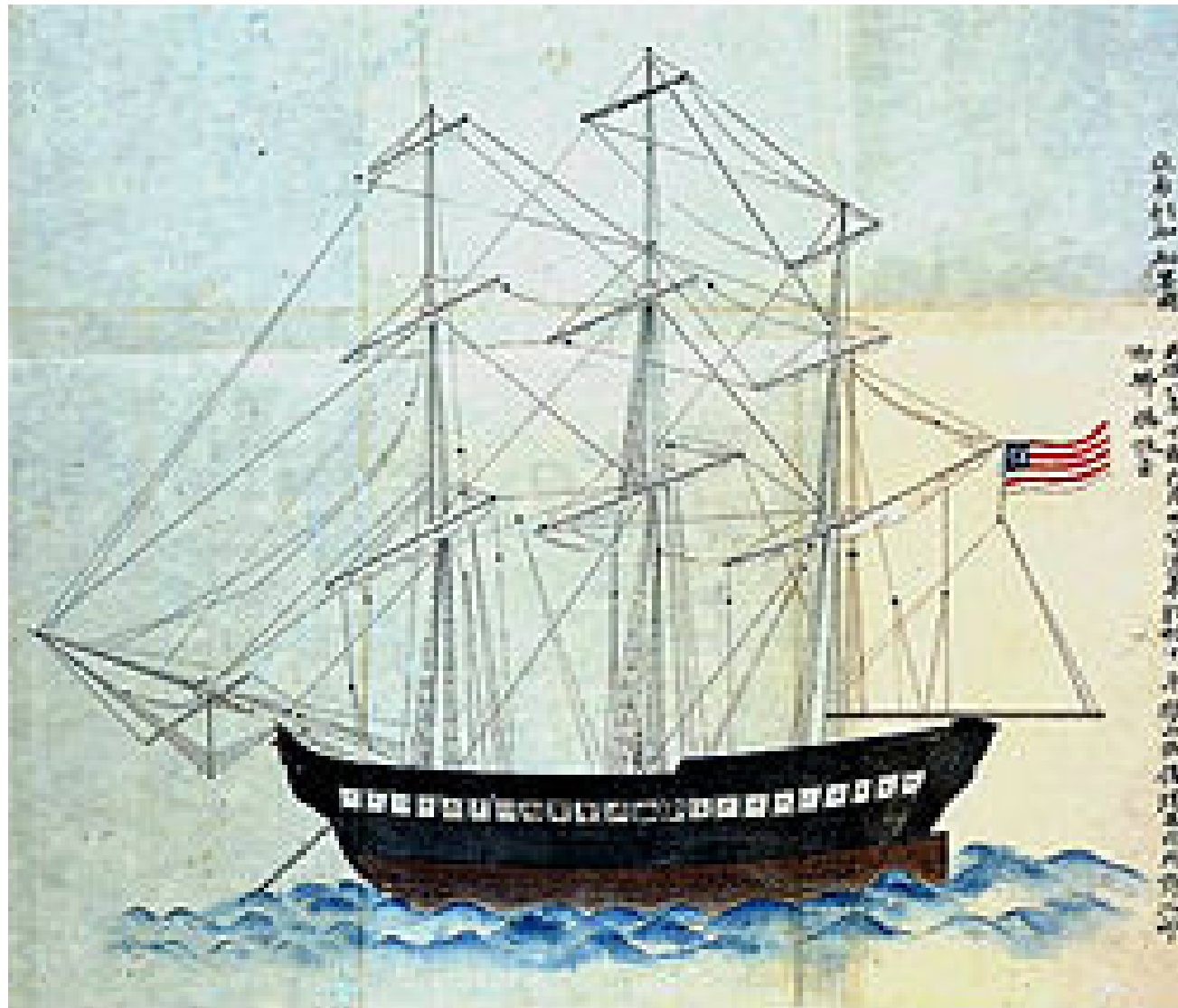
1841～43天保12～14年「天保の改革」(内憂)

享保の改革(1716～45年)、寛政(1787～93)の改革に続く、徳川幕府三大改革の一つ(飢饉に連動)



老中 水野忠邦が主導した幕政改革 物価抑制、財政再建、外国船への備えなど→失敗・失脚

1825文政8年頃 日本沿岸に外国船出沒 (外患)



1837天保8年 アメリカ商船「モリソン号」をイギリス軍艦と勘違いして薩摩藩らが
「異国船打払令」に従い砲撃を行った「モリソン号事件」

1825文政8年「異国船打払令」(外患)

「攘夷思想」

1825文政8年「異国船打払令」
日本沿岸に近づく外国船を撃退する



1837天保8年「モリソン号事件」
日本人漂流民を送り届けに来たアメリカ船を砲撃



「倒幕思想」

幕府の対応を批判した高野長英・渡辺崋山らは
幕府によって厳しい処分を受けた。「蛮社の獄」

1840～2天保11～3年「アヘン戦争」(外患)



イギリスはインドで製造したアヘンを「清」に輸出して巨額の利益を得ていたが、それを阻止する清との間で戦争となった。戦争はイギリスの勝利に終わり、1842年に南京条約締結。イギリスへの香港島などの割譲、イギリス人の居住権の承認、開港、賠償金の支払いなど、「清」にとって不平等条約が結ばれた

1842天保13年「薪水給令」「外患」

水野忠邦によって、
たきぎや水を与えて退去させる方針に転換

1843天保14年「上地令」じょうちれい
「アヘン戦争」のような事態を防ぐため幕府の防衛地を
確保するため、各藩等の土地を没収したが失敗



水野忠邦失脚
「天保の改革」終わる



開国へ

1825文政8年～1843天保14年頃の日本の動向は？

1825 文政8年	異国船打払令	外国船の日本接近と「異国船打払令」(攘夷) 日本沿岸に外国船が出没し砲撃
1833～9 天保4～10年	天保の大飢饉	(寛永・享保・天明大飢饉に続く江戸四大飢饉の一つ) 各地で百姓一揆が多発
1837 天保8年	幕府 大塩平八郎の乱 三条実美 誕生	11代家斉いえなり(8代将軍吉宗の曾孫)12代家慶いえよしに譲位はしたが、 家斉が「大御所政治」を行って権力を掌握していた 大阪の元与力 大塩平八郎が飢えにあえぐ民衆たちを救うために、私利私欲を肥 やしていた大阪の豪商を襲って金銭や米を奪った
1840～2 天保11～3年	アヘン戦争	清へのイギリスの侵略戦争 イギリスの勝利で欧米列強による中国「清」侵略→香港の割譲 や不平等な通商条約締結・・・日本はこれを危惧した！
1841～3 天保12～4年	天保の改革	(享保・寛政の三大改革の一つ)水野忠邦が取り組んだ 財政の引き締めと物価の抑制のための倭 約令、農村復興のための人返し法を改革
1842 天保13年	薪水給令 しんすいきゅうよれい	「異国船打払令」を改め施行→幕府は「開国」の動き 津藩、神宮警護を命ぜられる
1843 天保14年	上地令 じょうちれい	「アヘン戦争」のような事態を防ぐため幕府の防衛地を確保するため、各 藩等の土地を没収したが失敗し水野忠邦失脚

朝廷では、幕府や摂関家の支配に対する長年の不満がくすぶり、
天皇や朝廷の権威を強化しようとする動きがあった

「内憂外患」→幕府の権威が失墜し、尊王攘夷(天皇が政治を行い外国を追い払う)思想が高まった

1837天保8年三条実美 父贈右大臣実万さねつむと 母土佐藩主山内豊策とよかず娘の四男として誕生

小三郎より8歳年上



「幕末維新 天翔ける恋」

家 格

- ①摂関五家・・・摂関・三公を輩出
- ②清華九家・・・三公止まり 三条家
- ③大臣家

朝廷運営の分担

- ①摂関(摂政・関白)
- ②三公(太政大臣・左大臣・右大臣)
十(左右大臣の下の内大臣・大将)
- ③両役(議奏・武家伝奏)

1843天保14年水野忠邦失脚から10年後、実美16歳 1853嘉永6年 米国艦隊黒船来航
幕府米艦に備えて山田奉行に神宮を守備させる



「泰平の眠りをさます上喜撰(蒸気船) たった四盃(4隻)で夜も寝られず」

1844弘化元年～53嘉永6年の日本の動向は？

1844 弘化元	欧米列強 通商要求	～1847弘化4 フランス・アメリカ・イギリスなどが通商を要求 日本の近海で漁をすることが多かった欧米の捕鯨船は日本の港を燃料・食料供給地として利用したかったから 開国して通商を要求
1845 弘化2	鷹羽匡一 誕生 たかばきょういち	(太田小三郎旧名) 霊仙寺は長州との連合を画策して、王政復古に尽力した多くの尊王の 志士を輩出して倒幕運動を激しく行うことになる 14歳年上の兄「浄典」は勤王の志士のち小倉藩にて斬首
1846 弘化3	孝明天皇	(～1867慶応2年)第121代天皇に即位 天皇の強い「攘夷思想」が朝廷・幕府に影響する
1849 嘉永2	三条実美 伊勢神宮	(12歳)従五位下叙される 第54回式年遷宮
1850 嘉永3	公武合体論 ジョン万次郎帰国	(～1860万延元年)朝廷(公)の伝統的権威と、幕府及び諸藩(武)を結びつけ て幕藩体制の再編強化を図ろうとし始めた
1852 嘉永5	小倉藩	島村志津摩(母は長州支藩長府藩の出)を家老に(尊王攘夷派)
1853 嘉永6	米国艦隊黒船来航 幕府 島津斉彬 ↓ 徳川家定 神宮守備 古市大火	浦賀にて開国・通商を要求し去る 尊王攘夷運動が盛んに 防衛力のない日本が外国列強の侵入を許せば植民地化されることを危惧して いた＝富国強兵が最優先課題 第13代将軍となる 幕府米艦に備えて山田奉行に神宮を守備させる 衰退の兆し(茶屋70軒、茶汲女780人に減少)
1854 安政元	安政の大地震	

実美17~21歳 1854安政元~5年 安政の大地震

1854嘉永7年 伊賀上野地震に始まり、

1854安政元年 南海トラフ巨大地震「安政南海・東海地震」、

1855安政2年 安政江戸地震

1856安政3年 安政八戸沖地震

1858安政5年 飛越(岐阜と富山の県境)地震 など



実美19歳 1856安政3年 13代家定と篤姫の成婚

薩摩島津家の台頭



13代家定の正室 天璋院篤姫(島津斉彬養女)



島津斉彬

1858安政5年 安政五カ国条約締結

開国派彦根藩主井伊直弼^{なおすけ}大老となり、**勅許を得ないまま**、米・蘭・露・英・仏と条約を締結
欧米側に「領事裁判権」を認め、日本側に「関税自主権」が無いなど「不平等条約」？

朝廷と関係悪化



実美21～22歳 1858～9安政5～6年 安政の大獄

日米修好通商条約の調印と将軍徳川家定の後継者をめぐる尊王攘夷派の反幕府運動に
大老井伊直弼が尊王攘夷派公家・大名などを処罰

徳川齊昭なりあき(前水戸藩主)は謹慎、父三條実萬さねつむ・吉田松陰・橋本左内ら8名が死刑



父 三條実萬さねつむ



吉田松陰

吉田松陰から山縣有朋、桂小五郎、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文などが学ぶ

実美17～21歳 1854嘉永7＝安政元年～58安政5年

1854 嘉永7 安政元	実美三条家を継承 京都御所炎上 日米和親条約締結 ロシア艦隊 安政地震	兄 三条公睦 きんむつ 死去→元服(17歳) 従五位上に昇格 侍従に任じられる 幕府と朝廷の融和 朝廷は問題視しなかった＝時の関白が和親交易論者であったから 大阪湾に侵入 お台場建設 大船建造の禁を解く ～1855安政2年(南海トラフ巨大地震)大被害
1855安 政2	おかげまいり 鳥羽城に台場	おかげまいり発生 田曾浦沖に清国船漂着 鳥羽城ほかに台場を築く
1856 安政3	米国総領事ハリス 山田の井阪徳辰 家定・篤姫成婚	下田に着任 「神境防夷」を著し、鳥羽藩主に海防を説く 家定と島津斉彬の義子天璋院 篤姫と成婚(幕府と島津家) 薩摩島津家の台頭
1857 安政4	西郷・白石会談	赤間関に薩摩藩本陣があった西郷隆盛(29歳)と下関豪商小倉屋白石正一郎 と面会 正一郎は平田篤胤、本居宣長流れの国学者鈴木重胤(尊王敬神派)の弟子で薩摩藩藍玉と長州藩 木綿織出を取持つ
1858 安政5	修好通商条約締結 安政の大獄 小三郎(13歳)	彦根藩主 井伊直弼 なおすけ 大老となり、勅許を得ないまま、米・蘭・露・英・仏と 締結したことで朝廷と関係悪化 ～安政6年 井伊政治に批判的だった紀州藩主徳川慶福(のち14代家茂)支持に反 対した者への報復と幕府を指弾する尊王派の排除・弾圧のため 父三条実萬 さ ねつむ、吉田松陰らが処分 白石邸に薩摩藩の来訪が集中＝薩長の結びつき強化 豊後日田私塾「咸宜園」広瀬青村に学ぶ＝のち松方正義と知縁に

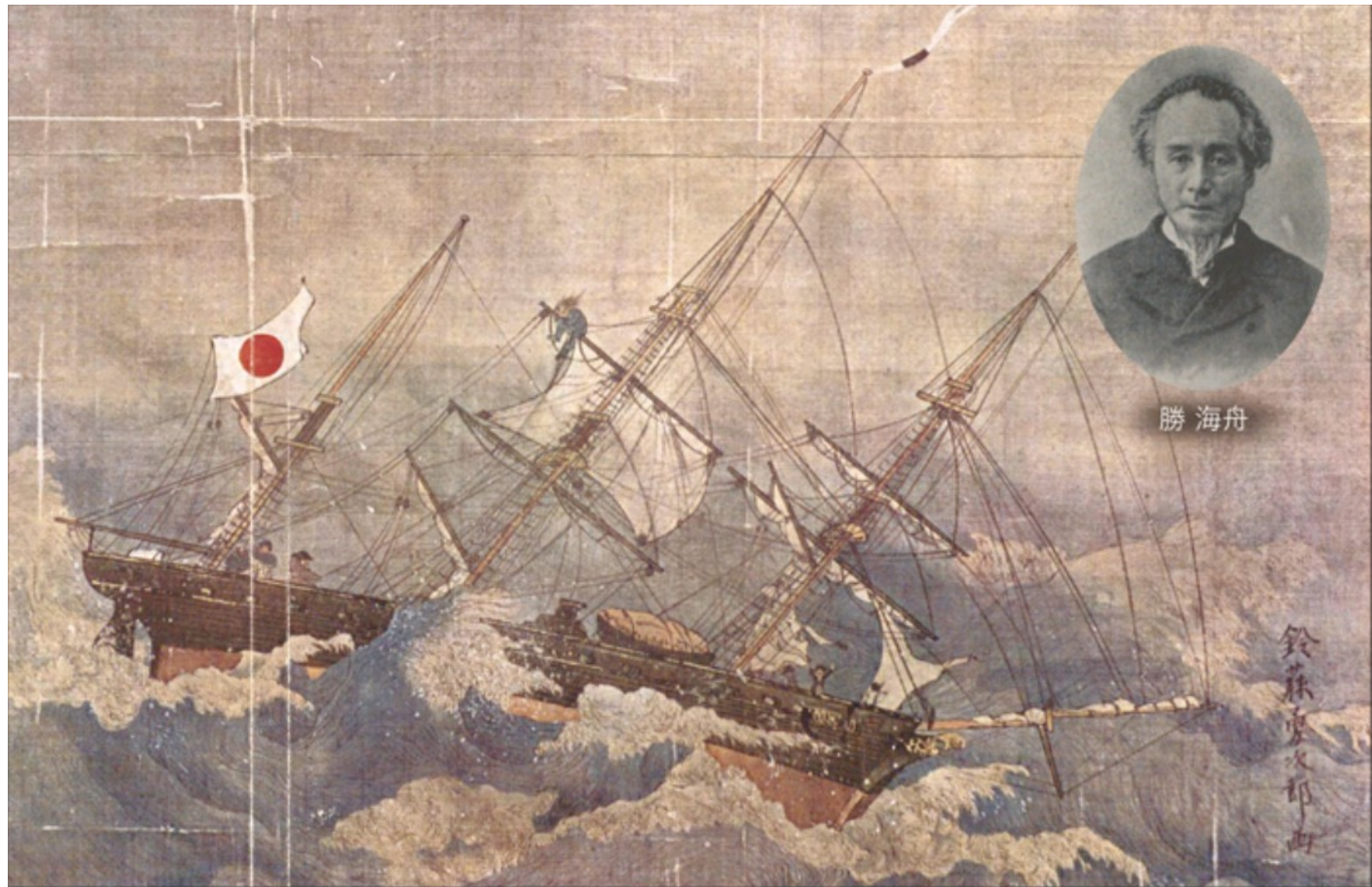
実美23歳 1860安政7・万延元年 「桜田門外の変」

大老井伊直弼暗殺



勅許を得ず修好通商条約を締結したことで尊王攘夷派の水戸藩脱藩者らが実行

実美23歳 1860安政7・万延元年 「咸臨丸渡米」



軍艦奉行木村摂津守と艦長勝麟太郎のもと約90名で浦賀を出航 日本人初の太平洋横断航海
通訳としてジョン万次郎、福沢諭吉等がいた

実美22～24歳 1859安政6年～1861文久元年

1859 安政6	薩摩藩と長州藩	交易開始(薩長連合の兆し)
1860 安政7 万延元	桜田門外の変	大老井伊直弼暗殺→公武合体運動へ＝幕府には航海通商を盛んして国力を高め、列強に対抗するという考えがあったが、それに長州藩尊攘派が反発した
	咸臨丸渡米	艦長 勝海舟、新見正興ら
1861 万延2 文久元	ロシア対馬占領事件	(ポサドニック号事件)ロシア軍艦が対馬芋崎を占拠し、兵舎・工場・練兵場などを建設して半年余滞留した事件
	長州豪商小倉屋	薩摩藩御用達になる

実美25歳 1862文久2年 14代家茂^{いえもち}に孝明天皇妹皇女和宮内親王降嫁

老中安藤信正や朝廷の岩倉具視が、朝廷と幕府とが一致して外敵の難を処理し、
同時に幕府の体制の立て直しを図ろうとした(公武合体)



14代徳川家茂



孝明天皇の妹皇女和宮内親王

実美25歳 1862文久2年 生麦事件→文久3年 薩英戦争勃発



生麦事件

薩摩藩島津久光の行列を遮った英国人殺傷事件

鹿児島湾での薩英戦争に発展

両者とも被害が出て講和し、以後、提携が進んだ
幕府軍を指導したのはフランス 朝廷軍はイギリス
アメリカは南北戦争の只中で日本をかまっている
余裕がなかった

薩摩藩は攘夷から開国へ



実美25歳小三郎17歳1862文久2年 公武合体 実美登場

1862 文久2	坂下門外の変 破約攘夷論 家茂に和宮降嫁 寺田屋事件 生麦事件 →薩英戦争勃発 (文久3) 実美登場 (強硬攘夷派) 諸藩上海使節団 小三郎(17歳) 鳥羽藩	公武合体を推進した老中安藤信正をそれに反対した水戸藩士が襲撃 長州藩は通商条約破棄、外国と一戦も辞さず 公武合体の象徴として岩倉具視が推進した 14代家茂いえもちに孝明天皇の妹皇女和宮内親王が降嫁 薩摩藩島津久光は政治は幕府が行うという考えで公武合体派だが 薩摩藩尊皇派志士を寺田屋で粛清した事件 島津久光行列を遮った英国人殺傷事件に端を発し 島津久光は攘夷が簡単ではないことを認識し、江戸幕府と朝廷が一体となった 強い国づくりを進める「公武合体」が絶対に必要だと考えた。 久坂玄瑞らは実美ら尊攘派公家と結びついて朝廷を動かす <u>安政の大獄で斬首された実萬の子として実美(25歳)評価され登場</u> 実美は公武合体論者だったが公武合体を進めた岩倉具視の排斥、 徳川政権打倒と王政復古の考えが醸成され、尊皇攘夷に転換 土佐勤王党がそれを支援。三条家は土佐藩山内家と縁家の関係にあった。 山内容堂 元々、三条家と毛利家やその領国である周防・長門とは因縁があった。 朝廷は幕府に破約攘夷を督促 三条実美・姉小路公知の両名を勅使として派遣 幕府が貿易の拠点を作るため高杉晋作らを派遣 この頃、元服か？ イギリス商船的矢湾に入津 鳥羽藩伊雑宮の防衛を命ぜられる
-------------	--	---

実美26歳 1863文久3年 奇兵隊結成



下関事件大敗がきっかけ、長州の豪商小倉屋白石正一郎の支援で高杉晋作が結成

実美26歳小三郎18歳 1863文久3年 八月十八日の政変 七卿落ち

公武合体派の薩摩・会津両藩が長州藩を中心とする尊王攘夷派公家の動きを封殺したクーデター



三条実美ら尊王攘夷派の七卿は官位を剥奪され、長州藩とともに京都から追放
七卿は奇兵隊の警護のもと長州藩に、
京都を追われた尊攘派は安全地を求め英彦山に参集

実美26歳小三郎18歳1863文久3年 実美リーダーシップ発揮

1863 文久3	実美ほか朝廷の動向 実美(26歳) 勤王三藩の動向 実美 徳川家茂 下関事件 奇兵隊結成 高杉晋作 英彦山との連携 八月十八日の政変 七卿落ち	攘夷論は過熱と急進化の一途をたどる 攘夷派公家が朝議を支配した。実美ほか朝廷で尊攘派がさらに体制を整える 急進的・強硬な尊王(倒幕と王政復古)攘夷(外国排除)のリーダーシップ発揮 会津藩・薩摩藩は開国・公武合体との考えで対抗した 薩摩・長州・土佐は意見の相違で亀裂を深める 土佐藩をまとめ長州・土佐で薩摩藩に圧力をかけた。 外国船に攘夷を決行することを朝廷に約束 長州藩が馬関(関門)海峡で航行する米商船を砲撃した事件→大敗 下関事件大敗がきっかけ、豪商小倉屋白石正一郎の支援で結成 小倉屋白石家は尊攘運動の情報伝達の間として機能 尊攘派公卿(後の明治天皇の侍従中山忠光卿)らが入り出る 長州藩の再起を高杉晋作に託す 英彦山は困窮のどん底にあり長州藩の軍資金・派兵等を喜んだ 公武合体派の薩摩・会津両藩が長州藩を中心とする尊王攘夷派公家の動きを封殺したクーデター 尊王攘夷強硬派三条実美ら7卿は官位を剥奪され、長州藩と共に京都から追放され、7卿は奇兵隊の警護のもと長州藩に落ち延びた 京都を追われたその他の尊攘派は安全地を求め英彦山に参集
-------------	--	---

実美27歳小三郎19歳1864元治元年 馬関戦争(四国艦隊下関砲撃事件)



長州藩が馬関(関門)海峡を航行する米仏蘭商船を砲撃したのが発端 米英仏蘭4か国と戦争→大敗

実美27歳小三郎19歳1864元治元年 禁門の変(蛤御門の変とも)



京都を追放された長州藩勢力が京都守護職会津藩主松平容保らの排除を目指して、
英彦山修験僧とともに挙兵→第1次長州征伐(戦争に至らず)英彦山義僧が殉難

実美27歳小三郎19歳1864元治元年 実美と小三郎はこの頃、下関で出会った？

伊勢度会人物誌には、王政中興京都に入り三條相國の知遇を受け、とあるが、実際は、



実美(27歳)



小三郎(19歳)

若く、勤王の志士として幕府に知られていない「小三郎」は
長州や大宰府に幽閉された実美の諜報活動するようになった「隠密」？

ちよつと ひとやすみ ひとやすみ

実美(27～8歳)と小三郎(19～20歳) 1864元治元～1865慶應元年

この頃、下関で出会った？

1864 元治元	実美と小三郎 水戸藩「天狗党」挙兵 5卿となる 池田屋事件 禁門の変 英彦山義僧斬首 第1次長州征伐 四国艦隊 下関砲撃事件 浜島港	<u>実美(27歳)と小三郎(19歳) この頃、下関で出会ったか？</u> 各地の攘夷派の勢力は増しつつあった 三条実美ら六公卿下関白石家逗留したが、公卿一人が白石邸で死去 京都三条の旅籠・池田屋に潜伏していた長州藩・土佐藩らの尊王攘夷派志士を京都守護職配下の治安維持組織新選組が襲撃 (蛤御門の変とも)京都を追放された長州藩勢力が会津藩主京都守護職松平容保らの排除を目指して挙兵 英彦山の修験僧も参戦 →薩摩藩参戦により長州完敗 <u>小倉藩に捕縛された英彦山義僧が殉難 小三郎の兄浄典も斬首された</u> 長州藩3家老が責任を取り切腹した結果、戦闘に至らず (英・仏・米・蘭)来襲→大敗・上陸占領 長州藩は内戦状態となり、高杉晋作が決起して、攘夷を破棄した尊王派が長州藩の実権を奪取 イギリス商船浜島港に入津
1865 元治2 慶應元	五卿落ち 実美太宰府会談 薩長提携を画策 浜島港	<u>五卿太宰府に入る</u> 太宰府天満宮は当時、安楽寺天満宮といい、前別当は三条実萬さねつむと従兄弟の関係にあった <u>実美と坂本龍馬や井上 馨・伊藤博文と太宰府で会う</u> <u>実美 長州藩を救うため薩長提携を決意</u> 中岡慎太郎各地で画策 イギリス軍艦浜島港に入津(伊勢神宮に迫る外国船の脅威) ……小三郎？

実美28歳小三郎20歳 1865元治2慶應元年 五卿落ち

安楽寺天満宮前別当は三条実萬さねつむと従兄弟の関係にあった



太宰府で実美と坂本龍馬や井上 馨・伊藤博文と会う
実美 薩長連合を画策 中岡慎太郎が各地で活動

実美29歳小三郎21歳 1866慶應2年 薩長同盟成立

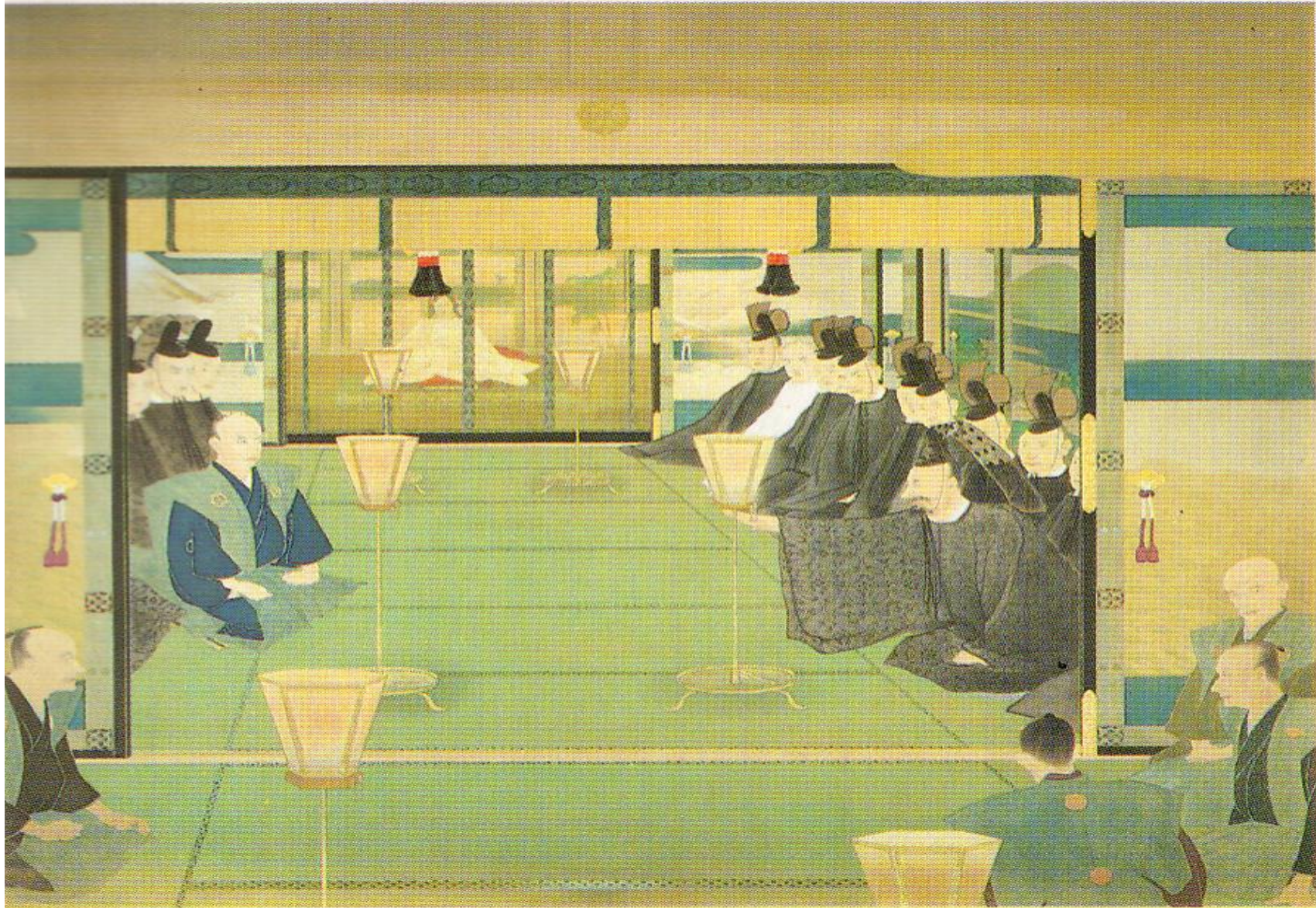
1866 慶應2	薩長同盟成立 寺田屋事件 実美・岩倉連合 第二次長州征討 うちの小倉戦争 (小倉口の戦い) 家茂いえもち死す 孝明天皇崩御	坂本龍馬・中岡慎太郎・土方久元の仲介による (2回目)伏見奉行による坂本龍馬襲撃事件 龍馬は難を逃れる 薩摩のお陰で長州藩が最新軍備 小倉口総督・小笠原長行が指揮し、幕長戦争(四境戦争)開戦 小倉城陥落時兄「<u>浄典</u>」ら英彦山捕虜が獄中で斬首された 小三郎は諸国を流浪中(=三条の命令で動いている?)に英彦山義僧が斬首 されたことを聞き、急遽、英彦山に戻り、衆徒と力を合わせ、遺族の救助に尽く し、また密かに義徒の遺志を継ぎ、一山の士気を恢復して英彦山の興隆を図ら んと諸般にわたり、奔走した 小倉藩大敗 長州藩が幕府軍に圧勝して倒幕へ 天皇崩御を理由に第二次長州征討は終戦 慶喜が15代将軍に、 薩摩藩の助力あって五卿護送を停止する決定あり
-------------	--	---

実美30歳小三郎22歳 1867慶應3年 大政奉還



二条城における大政奉還の図

実美30歳小三郎22歳 1867慶應3年 王政復古の号令



日本の統治を幕府から朝廷に戻すという号令 慶喜が退き、新政府樹立を宣言

実美30歳小三郎22歳 1867慶應3年 実美復帰

1867 慶應3	五卿の赦免と復位 大政奉還 王政復古の大号令 実美復帰 高杉晋作病死 近江屋事件	五卿、太宰府で新年を迎える 実美ら5卿の赦免と復位が達成 実美は外国人の事情調査派遣→攘夷論に疑い 攘夷とは国を閉ざすことでなく、外国人を排斥するものでなく日本が外国から自主自立できること、に変貌してきていた (10月)徳川慶喜が将軍職辞職したが実権を握っていた (12月)反幕府派薩摩藩大久保利通×親幕府派前土佐藩主山ノ内容堂 →慶喜が退き、新政府樹立を宣言 (30歳)成立した新政府で政治の表舞台に復帰 (27歳) 龍馬(32歳)・中岡、京都近江屋にて襲撃され死亡 先代小三郎没 ええじゃないか発生
	国政体制 三職(Ⅰ)制定	(1月)明治政府は行政権を担う国政体制を初めて制定 太政官制の布告によって廃止されるまで約6ヵ月間存続 ①総裁-②議定ぎじょう-③参与の三職が設置され国政を総理 総裁:有栖川宮熾仁たるひと親王→のち「神苑会会頭」 議定:島津茂久・徳川慶勝・山内豊信・正親町三条実愛おおぎまちさんじょうさねるら 10名が任じられ、その後、三条実美・岩倉具視ら4名が追加

実美31歳小三郎23歳 1868慶應4年 五箇条の御誓文発布

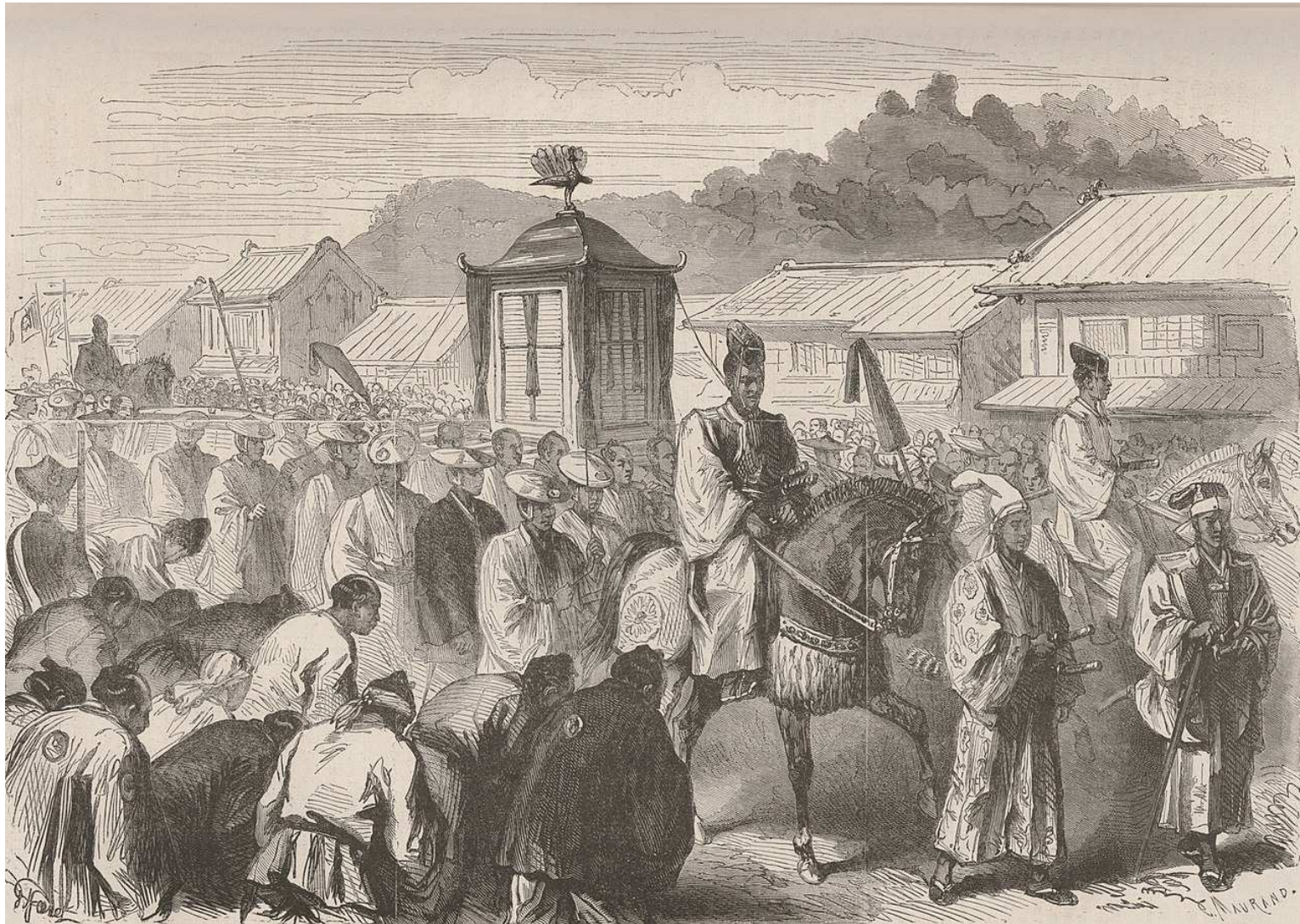


御誓文を読み上げているのは三条実美

実美31歳小三郎23歳 1868明治元年 明治天皇即位(15歳)



実美31歳小三郎23歳1868明治元年 明治天皇東京行幸(初回)



新しい為政者である天皇を国民に知らしめる(天皇のデモンストレーション)
江戸を東京と称する 実美 東京の鎮将(≡都知事?)

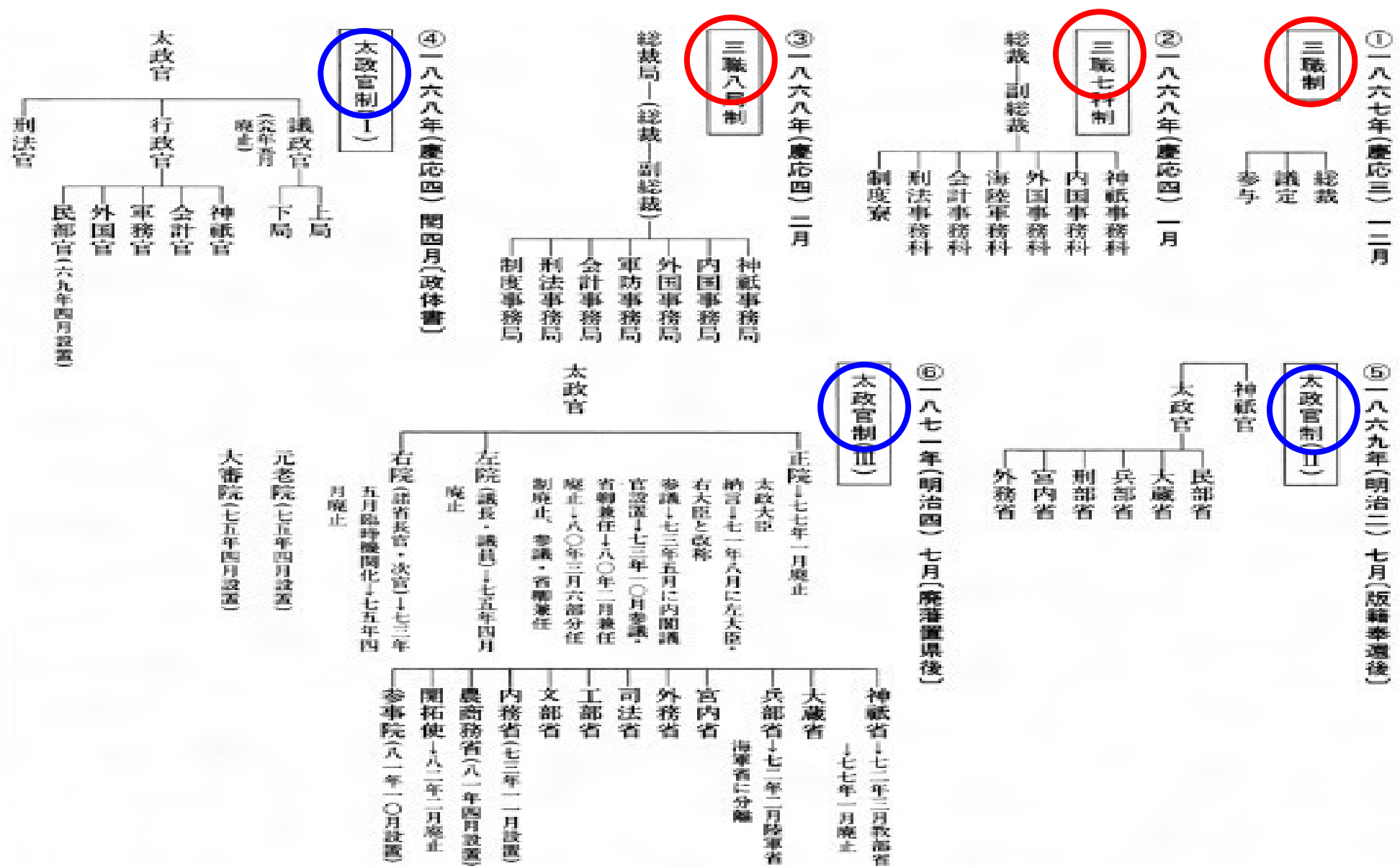
実美31歳小三郎23歳 1868慶應4年・(9月より)明治元年(1)

三条実美・岩倉具視が副総裁に

1868 慶應4	戊辰戦争勃発	(1月)「鳥羽伏見の戦い」を発端→上野戦争(彰義隊ら)→箱館戦争(土方歳三ら)で終結
	神仏判然令発布 (神仏分離令)	(3月)五箇条の御誓文発布、「祭政一致」の理想実現のため <u>「神道国教化」の方針</u> を採用し神仏習合を禁止→廃仏希釈運動に発展
	江戸城開城	(4月)
	江戸に「鎮台」置く	(5月)明治新政府は江戸「鎮台」を置き、大総督有栖川宮熾仁親王の管轄とした
	江戸を東京と称する	(7月)徳川家駿府移封・駿河以東13国を管理と彰義隊の排除のため江戸に鎮台を廃して鎮将府が置かれ 関東監察使・関八州鎮将を兼ねた鎮将に実美を任じる
明治元	明治天皇即位	(9月)(15歳)慶應→明治に改元
	江戸行幸(初回)	(10月)江戸城入城 箱館戦争勃発 鎮将府を廃して行政官に移管
	嗣子英国留学	実美は嗣子公恭 きみあや を英国留学させた
	太政官制公布 のち順次改制 三職(Ⅱ)7科制制定 三職(Ⅲ)8局制定	(1月)国家権力を総括する太政官を置き、三職のうち総裁は有栖川熾仁 たるひと と親王がなったが廃止され、議定兼行政官の「輔相 ほしょう 」(諸大臣の上に立ち天皇を助けて政治を行う者)として実美・岩倉具視が副総裁に (事実上の政府首班に就いたが、現実には、藩閥政治家の実力者が参議として実権を握る) 「神道国教化」のため神祇事務科が設置された (2月)総裁局を新設して8局とした

明治初期の政治体制の変遷

1867慶應3年～1885明治18年内閣制度発足後



実美(31歳)小三郎(23歳)1868明治元年 三条実美の政策

三条実美の危機感

- アヘン戦争の教訓として、日本を早急に強くしなければ欧米列強に侵略される(強い危機感)
- 欧米列強の強さの源泉はキリスト教を国教としていることにある
- 日本国民にキリスト教信者が増えれば欧米列強に飲み込まれる→日本固有の国教が必要

三条実美の政策(明治元年矢継ぎ早やに施行された、つまり、前もって考えられていたか?)

(前半戦)

①新しい為政者として「天皇」を広く日本国民に喧伝する

江戸を東京と改称し、事実上の遷都を行う 明治天皇(15歳)即位 慶應→明治に改元

→江戸行幸: 明治元年10月(初回)、明治2年2月(2回目)、明治5年(3回目)

②日本国民の国教として「神道」を広め、伊勢神宮を日本国民の「宗廟」と認知させる

→伊勢神宮参拝: 明治2年2月(初回陸路)、明治5年(2回目海路)、明治13年(3回目)

(実美の指示)外国船の接近もあり、「行幸」の安全を確保するのが、小三郎の役目だった?

③文明開化して欧米に追いつき、国を豊かにする→殖産興業(富岡製糸場、鉄道敷設、第一国立銀行など)

(後半戦)

④「祭政一致」の象徴として伊勢神宮を相応しい格式に整備する

→神宮制度改革: 浦田長民らによる神職の世襲禁止や大麻配布・御師廃止→生活保障?

→神宮環境改革: 日本国民が厳かに参詣できる環境を整える 太田小三郎らの神苑会と鉄道

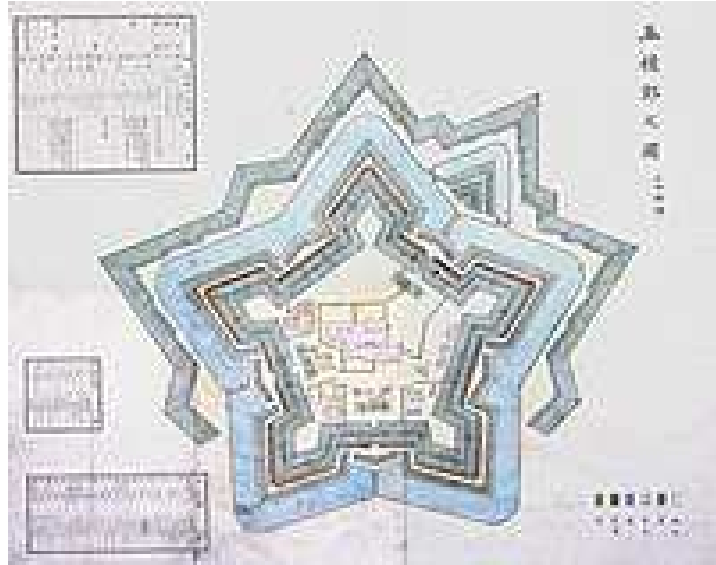
(実美の指示)日本全国を巻き込んで実行するのが、小三郎の役目だった?

実美31歳小三郎23歳 1868慶應4年・明治元年(2)

「小三郎 徴士^{ちょうし}となる」

1868 明治元	太政官制(Ⅰ)制定	(閏1月) 太政官-(1)議政官=上局(議定・「参与」)-下局(貢士) -(2)行政官(神祇官・会計官・軍務官・外国官・民部官) -(3)刑法官 役職(4階級)①長官 ^{かみ} :太政大臣(非常設)-左大臣(事実上の行政最高責任者)-右大臣(左大臣の補佐)-内大臣- ②次官 ^{すけ} :大納言-中納言-参議- ③判官 ^{じょう} - ④主典 ^{さかん}
	徴士・貢士制度 小三郎「徴士」となる 英彦山神社 度会府	(~明治4年)三職制度のもと、徴士 ^{ちょうし} ・貢士 ^{こうし} 制度制定 <u>諸藩主の推挙により藩士や有才が藩論を代表して公議に「参与」した議政官を「貢士」と言う。特に優秀な貢士は徴士</u> として政府出仕を命じられた。慶應4年に設置された二院制の下院に相当する機関の「下の議事所」(→議政官下局→貢士対策所→公議所と改称)に出仕したが、のち公議人に統一された。明治2年廃藩置県により制度廃止。 <u>(23歳)(実美の)「徴士」となった</u> 実美と小三郎の尽力により、高千穂家を興して、「霊仙寺」は「英彦山神社」に改宗 宇治と山田三方会合廃止、小林村山田奉行所に度会府(府知事 橋本実梁)設置、のち一之木の三方会合所に移転

慶應4年 鳥羽伏見の戦い→実美32歳小三郎24歳 明治2年 箱館戦争終戦
=戊辰戦争終結



箱館五稜郭



新選組 土方歳三
箱館五稜郭の防衛戦で戦死

実美32歳 小三郎24歳 1869明治2年 東京行幸(2回目)と天皇両宮参拝(初回)



東京行幸の途中、初めて天皇両宮参拝

小三郎が実美の命を受け、行幸の安全と両宮参拝の段取りした？

実美32歳小三郎24歳 1869明治2年 天皇両宮参拝(初回)

1869	版籍奉還	(1月)版籍奉還
明治2	東京(事実上)遷都 天皇両宮参拝	(2月)東京行幸(2回目)で京都に戻らず、江戸が事実上の首都となった 途中、 <u>天皇両宮参拝(初回)</u> (陸路) 小三郎:行幸陸路の安全を確認した?
	箱館戦争	(5月)箱館戦争終戦(＝戊辰戦争終結)
	鉄道建設計画	(11月)鉄道建設計画決定 (12月)東京-横浜間電信開通/乗合馬車も開通
	度会県と改称	第55回式年遷宮 太政官布告により「府」は東京・京都・大阪に限るとし、 度会府を度会県と改称
	太政官制(Ⅱ)	(7月)政体書に代わって職員令が制定され、「太政官制」となる (民部省以下6省を管轄) 祭祀を司る「神祇官」が復活して太政官よりも上位に置かれた。 太政官には左右両大臣 (左大臣は空席、右大臣＝ 輔相:三条実美…事実上のトップとなった)、 大納言3名(＝議定:岩倉具視、徳大寺実則、鍋島直正)、 参議3名(参与:東久世通禧、木戸孝允、大久保利通、後藤象二郎、副島種 臣、板垣退助)の「三職」が置かれて指揮をとった

実美33歳小三郎25歳 1870明治3年「小三郎、伊勢に居を構える」

1870 明治3	「大教宣布」発布	(2月)天皇に神格を与え、神道を国教と定めて、日本(大日本帝国)を「祭政一致の国家」とする国家方針
	伊勢に居を構える	(備前屋に入籍＝明治5年の2年前?)小三郎、伊勢に居を構える <u>的矢に英国軍艦入港</u>
	日田県知事	慶応4年～明治3年の日田県知事は松方正義 のち中央政府へ栄転 英彦山は日田県の直轄地となる

伊勢神宮に外国船迫る

実美34歳小三郎26歳1871明治4年「廃藩置県」(中央集権体制の確立)



廃藩置県を布告するため東京在京中の藩知事56名を召集した

明治天皇と詔書を読み上げる**右大臣三条実美**

御帳台左側に控える左から2人目は木戸孝允^{たかよし}(桂小五郎)、3人目は岩倉具視

藩士(扱い?)だった「徴士」小三郎はお役御免となったか?

実美34歳小三郎26歳 1871明治4年「遣外使節団」出発～明治6年帰国



左から木戸孝允、山口尚芳、岩倉具視、伊藤博文、大久保利通

留守政府：三条実美、西郷隆盛、板垣退助、大隈重信、井上馨、江藤新平、副島種臣ら（内部対立があった）

－2年後→明治6年 留守政府メンバーで「明治六年政変」勃発

実美34歳小三郎26歳 1871明治4年「神宮制度改革」御師廃絶など

神道を日本国の国教とする

伊勢神宮を日本の宗廟としての国有化
神職の世襲禁止や大麻配布、御師廃止

浦田長民の経歴

1857安政4年伊勢神宮の内宮権禰宜となる。

明治維新後、度会県の神祇学校曹長として

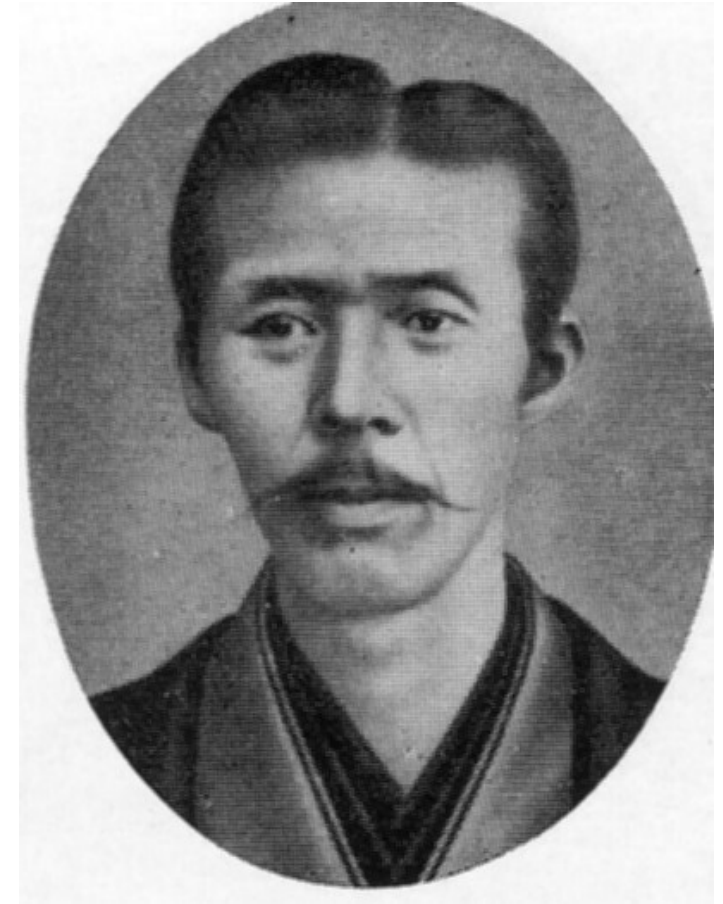
1871明治4年7月 御師大麻の廃止など一連の

神宮改革を神祇官との連絡を取りながら断行した
神祇官出仕などを経て

1872明治5年7月に伊勢神宮少宮司となり、

伊勢神宮の崇敬団体である**神風講社**(御師の代わり)
の結成や神宮大麻の全国頒布に大きな功績を残した

1877明治10年 禰宜降格に抗議して神宮を去った



浦田長民 うらたながたみ

1840天保11年～1893明治26年

宇治山田(伊勢市)生まれ

実美34歳小三郎26歳 1871明治4年 神宮制度改革 御師廃止

1871 明治4	廃藩置県発布	(7月)藩を廃止して地方統治を中央管下の府と県に一元化した 郷里に帰っていた西郷隆盛と板垣退助を呼び戻し、廃藩置県が断行
	四民平等	(8月)差別解放令により平民となる
	遣外使節団出発	(11月～明治6年9月)岩倉具視らを欧米派遣 留守政府: 三条実美、西郷隆盛、板垣退助、大隈重信、井上 馨、江藤新平、 副島種臣ら(内部対立があった)
	郵便制度発足	東京・京都・大阪間で設置 山田に郵便取扱所が置かれる 郵便取扱所一志久保町に開設
	新貨条例	松方正義 両・文→円・銭・厘の貨幣の統一 山田羽書(度会府札)廃止
	神宮制度改革	(7月)浦田長民らによりによって神職の世襲禁止や大麻配布、御師廃止
	度会県発足	鳥羽県を廃し、久居県を経た久居藩領一志郡を含め、改めて度会県が発足、 県庁を度会郡山田岩淵町箕曲(現在の伊勢市岩淵二丁目)に設置
	太政官職制(Ⅲ) 制定	(7月)太政官三院制 正院・左院・右院が設置され、その下に民部・大蔵両省 の再合併、大久保の内務省が新設、外務省・司法省・文部省など8省からなる 中央集権の官僚制度を確立した。 正院は(1)太政大臣 (2)左大臣 (3)右大臣 (4)大納言→参議で構成 初代太政大臣(天皇の代行者で政府の最高決定者)は三条実美、 左右大臣は当初設置されず大納言として岩倉具視がその任にあたったが、 後、右大臣に昇格。

実美35歳小三郎27歳 1872明治5年(5月) 天皇両宮参拝(2回目)

明治天皇が九州・西国を巡幸の際、参議西郷隆盛らと共に軍艦で来訪、
鳥羽で1泊し、25日に二軒茶屋から上陸して伊勢神宮両宮に参拝、
外宮行在所に宿泊して、27日に大阪に向け出港



二軒茶屋に記念碑建立



1872明治5年 行幸の途中、2度めの天皇両宮参拝

1870明治3年 的矢に英国軍艦入港などがあった

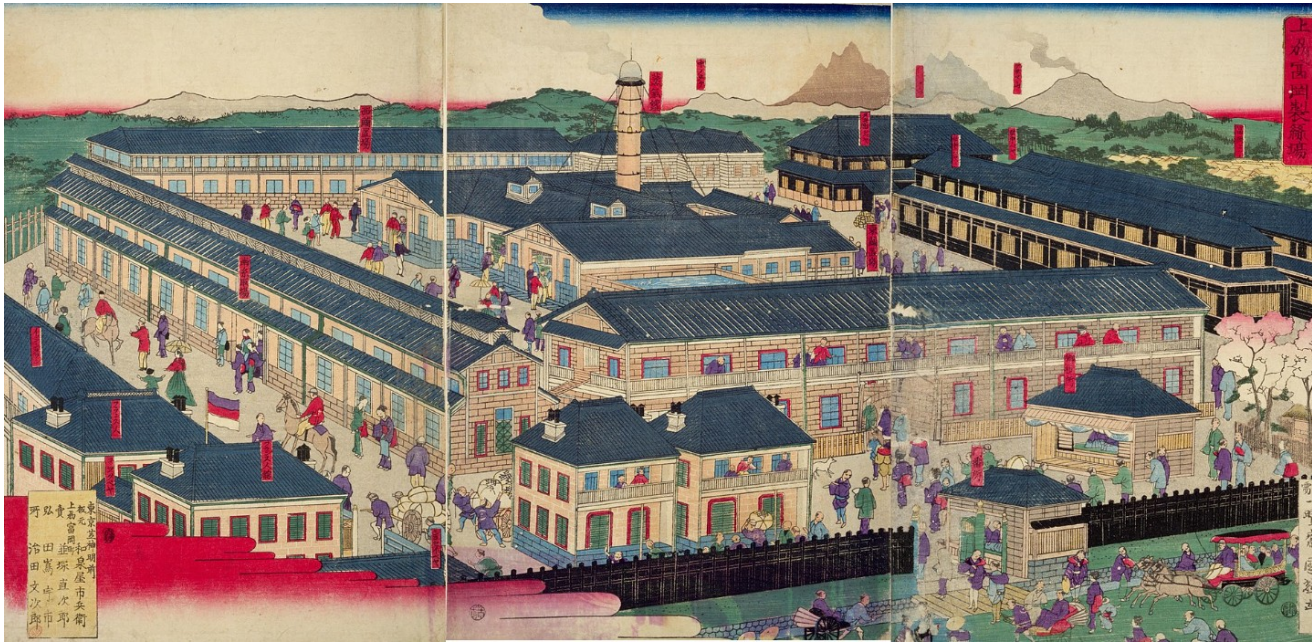
小三郎が実美の命を受け、「鳥羽藩」と協力して海上航路の安全を確認して段取りしたか？

伊勢度会人物誌の「明治5年、同(三条)家の用務を帯び鳥羽藩に至る」はこのことだった？

実美35歳小三郎27歳1872明治5年「小三郎備前屋に入籍」



実美35歳小三郎27歳 1872明治5年(7月)
富岡製糸工場操業開始 第一国立銀行ほか4銀行が創立



富岡製糸場



第一国立銀行(兜町)

実美35歳小三郎27歳1872明治5年(9月) 新橋-横浜間鉄道運行開始



新橋駅(現、汐留駅)

実美35歳小三郎27歳 1872明治5年

天皇両宮参拝(2回目)「小三郎備前屋に入籍」

1872明治5	大教宣布運動	明治3年に宣布された「大教宣布運動」が盛んになる？
	明治天皇行幸 伊勢神宮参拝	小三郎：行幸海路の安全を確認した？ (5月)明治天皇行幸(3回目)海路にて二軒茶屋より上陸し <u>両宮参拝(2回目)</u> 大阪に向け出港 のち二軒茶屋に記念碑建立
	富岡製糸工場	(7月)富岡製糸工場操業開始 第一国立銀行ほか4銀行が創立
	学制公布	(8月)学制公布
	鉄道運行開始	(9月)新橋-横浜間鉄道運行開始
	人身売買禁止令	(10月)人身売買禁止令 明治政府が発した遊女の人身売買の規制などを目的とした太政官布告 通称、芸娼妓解放令、娼妓解放令、人身売買禁止令、牛馬きりほどもき令とも呼ばれる
	太陽暦採用	(12月)太陽暦採用(明治5年＝明治6年1月1日)
	備前屋に入籍	匡一、備前屋に入籍し太田小三郎となる 古市妓楼32件に衰退 鳥羽城取壊し

実美36歳小三郎28歳 1873明治6年 「明治六年政変」



明治6年に発生した政変 西郷隆盛をはじめとする参議の半数が辞職したのみならず、軍人、官僚約600人が辞職した。直接の原因が征韓論にあったため、征韓論政変とも称される。

三条は人事不省に陥いる→実美の政治手腕が評価されない理由？

実美36歳小三郎28歳 1873明治6年「小三郎実業を学ぶ」

1873明治6	徴兵令発布	徴兵令発布 各地で反対一揆発生
	キリスト教容認	キリスト教禁止令廃止
	地租改正条例	(7月)地租改正条例公布 土地の所有を認め、地券を発行した
	明治六年政変	(5月)内部対立によって大蔵省の実験を握った井上馨らが辞職、内部対立激化
	岩倉使節団	(9月)帰国
	征韓論	(10月)西郷隆盛ら征韓派と反対する木戸・岩倉との調整に苦慮するあまり <u>三条は人事不省に陥り、(三条の政治的評価が悪い原因?)</u> 一時的に岩倉が太政大臣摂行(代理)に任じられた。 政変後、西郷は辞職、大久保利通が政府の実権を握る。 実美は大久保の意見に従う。 大久保(初代内務卿)により内務省が設立、内政・殖産興業政策を推進し日本近代化を専管した。
	小三郎	小三郎 大阪上等裁判所奉職、築地造船所創立に従事 神苑会設立のため、法律や起業・経営の勉強をしていたか？

実美37歳小三郎29歳 1874明治7年「小三郎活動開始」

1874 明治7		(1月)板垣らは民選議院設立建白書を提出 (2月)江藤新平が佐賀反乱勃発 <u>白石家三男大庭景明四男光瀨誕生</u>
1875 明治8	太政官三院制	行政:太政官・正院、立法:元老院・地方官会議、司法:大審院 の三権分立制の基礎を形作り、神祇省は宮内省の所管となった 征韓論などを巡って辞職した木戸と板垣が参議に復職して、大久保と伊藤の4 名となった。 山田郵便局創立 <u>光瀨、小三郎の養嗣となる</u>
1876 明治9	廃刀令発布 度会県は三重県に	(3月)廃刀令発布→士族の反乱勃発 <u>(備前屋入籍4年後) 小三郎 学習討論の結社「交修社」創設</u> 度会県は三重県に編入、伊勢暴動
1877 明治10	太政官三院制	太政官三院制の正院廃止 (1月)西南の役勃発 (3月)田原坂の戦い (9月)終戦 山田警察署開設

実美37歳 小三郎29歳 1874明治7年頃までに成立した「新政府＝実美の政策」

- 1) 平民に名字許可
- 2) (身分に関係なく) 婚姻の自由
- 3) 職業の自由
- 4) 散髪廃刀の自由
- 5) 衣服の自由
- 6) 旅行の自由
- 7) 田畑(作付/売買)の自由

実美40歳小三郎32歳 1877明治10年「西南の役」



明治政府の廃藩置県や地租改正などで特権や経済基盤を失った
旧士族の不満が徐々に高まっていて西郷を中心とした鹿児島士族が叛乱した

実美36歳小三郎28歳 1878明治11年～

1878 明治11	大久保利通暗殺 神宮暦頒布	(5月)(紀尾井坂の変)以降は伊藤博文の独壇場、 実美 も伊藤を支持 神宮暦頒布開始 豊宮崎文庫講堂焼失 伊勢新聞創刊
1879 明治12	度会郡役所設置	山田に度会郡役所設置 コレラ大流行 宮川の渡し廃止 宮川橋再建
1880 明治13	<u>天皇両宮参拝</u>	甲州・東山道巡幸の時、 <u>明治天皇両宮参拝(3回目)</u> 行在所:旧龍大夫邸 山田郵便局電信開始



明治元年頃



大久保利通



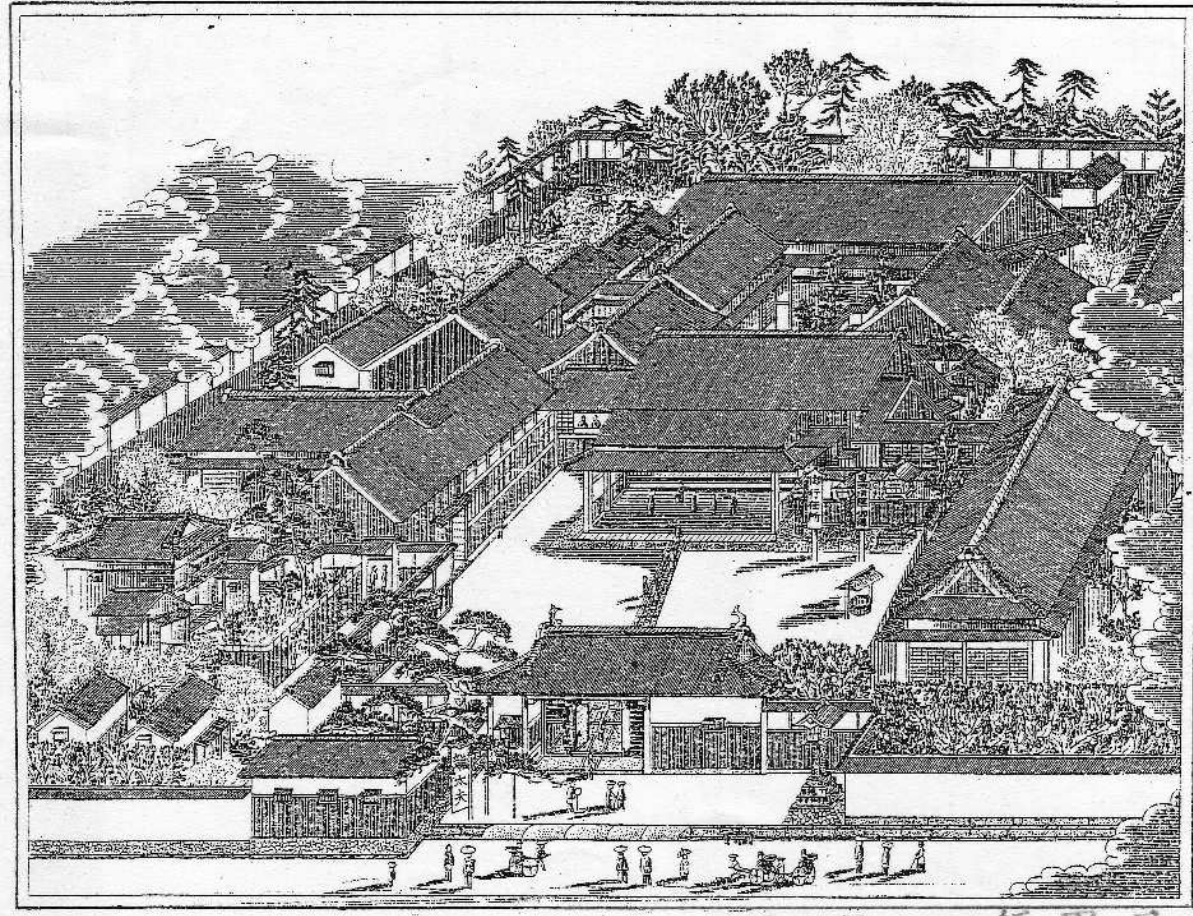
長州藩士時代の伊藤博文



大韓帝国皇太子 李垕

実美43歳小三郎35歳 1880明治13年 天皇両宮参拝(3回目)

行在所:旧龍大夫邸



1880明治13年 行幸の途中、3回目の天皇両宮参拝

小三郎が実美の命を受け、段取りしたか？

小三郎の仕事の前半戦 祭政一致の原点＝「明治天皇両宮参拝」が完了する

実美48歳小三郎40歳 1885明治18年 内閣制度発足・実美退陣

実美は、1863年「七卿落ち」から王政復古を実現し明治政府の内閣発足までの22年間、日本のトップとして活躍し続けた・・・、と考えていますが？

明治の歴代内閣総理大臣



初代・5・7・10代 伊藤博文



2代 黒田清隆



(2代臨時) 三条実美



3・9代 山縣有朋



4・6代 松方正義



8代 大隈重信

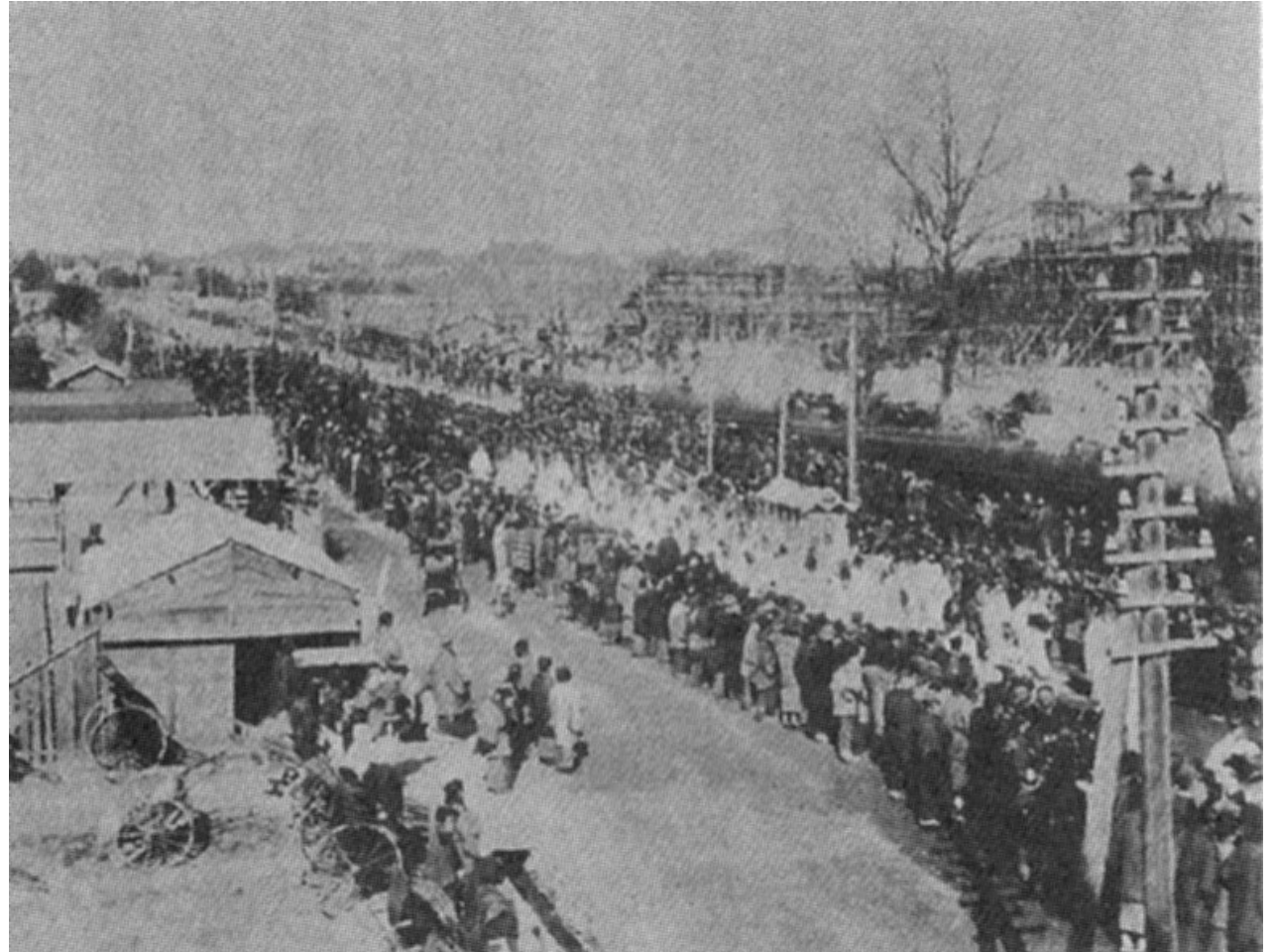
実美48歳小三郎40歳1885明治18年 内閣制度発足 実美は？

1885 明治18	内閣制度発足 伊藤博文内閣	<u>明治元年より18年間太政大臣を務めたが</u> 、太政官制廃止 実美は太政大臣を辞任、内大臣に転任 初代総理大臣は伊藤博文(～21年)
1888 明治21	黒田清隆内閣	2代総理大臣(～22年)
1889 明治22	三条暫定内閣 山縣有朋内閣	外務大臣大隈重信爆裂弾事件が発生し、黒田清隆は辞任、 <u>内大臣実美に内閣総理大臣を兼任させて</u> 内閣を存続。 実美は総理大臣の職権の強さが条約改正交渉問題の混乱を招いたとして、 内閣職権を内閣官制に改めて <u>当面の課題を解決した。</u> 内務大臣山縣有朋が総理大臣に任命され、第1次山縣内閣が成立(～24年) 実美は総理大臣を辞任し内大臣専任となった。 総理大臣は第1代伊藤、2代黒田、3代山縣で、実美は正式な総理大臣ではないと言われている
1891 明治24	(2年後)	<u>実美死亡</u> 第4代総理大臣 松方正義 明治24～25年

実美54歳小三郎46歳1891年明治24年 実美インフルエンザにて死亡



生前に正一位に除される



実美の国葬

1878年大久保利通は日本初の国民葬、1883年岩倉具視 実質的な初の国葬、
三条実美の時、政府は「国葬」と表現し、天皇の決定、勅令の手続きが定まったという

(まとめ) 太政大臣三条実美の政策と小三郎の活動

(アヘン戦争の教訓) 「キリスト教」を国教とすることで進化した欧米諸国に飲み込まれない
「キリスト教」に日本が飲み込まれない

↓

祭 政 一 致

「神道」を国教(心の拠り所)として天皇を中心に新しい日本を一つにまとめる

神仏判然令→廃仏毀釈→(伊勢)神宮改革(御師廃止)

天皇の神格化→天皇の伊勢神宮参拝、
神都整備＝神苑会の活動

↓

殖 産 興 業

西洋文化・技術の習得・交通網・金融の整備

交修社の勉強会 参宮鉄道 宮川電気 山田銀行

↓

富 国 強 兵

欧米先進諸外国の侵略を許さない強靱な国家の建設

(まとめ)太政大臣三条実美の政策と小三郎の活動 年表

アヘン戦争	1840～2年天保11～13年（明治維新の28年前）
↓	
尊王攘夷運動	イギリスなど欧米列強による中国「清」侵略→幕府は不平等な通商条約締結 (尊王)弱腰の幕府から政権交代して王政復古(天皇による統治)すべし (攘夷)侵略してくる欧米列強を排除する
↓	
安政の大獄	1858年安政5年
↓	
三条実美	開国した大老 井伊直弼が、実美の父三条実萬さねむつ、吉田松陰らが断罪 破約攘夷派ニューリーダーとして頭角を表す+土佐藩(縁戚関係)+長州藩
↓	
八月十八日の政変	公武合体派の薩摩・会津両藩が長州藩を中心とする尊王攘夷派公家の動きを封殺 1863年文久3年（尊王攘夷派）三条実美、長州藩らを追放
↓	
下関へ七卿落ち	+（尊王派）英彦山門徒(<u>実美と匡一の出会</u>)豪商 白石正一郎、高杉晋作 奇兵隊 第2次長州征伐 <u>以降、小三郎が「隠密」として活動 実美が日本を創る政策を立案</u>
↓	
太宰府へ五卿落ち	1864元治元年 蛤御門の変 1865年元治2年 <u>中岡慎太郎、(坂本龍馬?)→薩長連合</u>
↓	
復権	1867年慶応3年 大政奉還 <u>実美が日本を創る政策を実行</u>
↓	
明治維新	1868年明治元年 明治政府樹立 実美が最初の宰相「太政大臣」、小三郎「徴士」になる (18年間) 実美が明治政府を主導 <u>実美が日本を、小三郎が伊勢を創る</u>
↓	
内閣制度発足	明治18年初代内閣総理大臣 伊藤博文 明治24年実美逝去

さいごになりますが……、

三条実美はなぜ評価されないのか？

【良い評価】

激動する幕末・維新・明治政府の諸勢力の中で
誠実・有徳な（真面目で徳がある）為政者で
「調整役」として重要な役割を果たした

【悪い評価】

戦闘的攘夷派公卿としての過去の名声はあるが、
思想的に一貫性なく優柔不断、実行力なし、
扱い易いお人好しで、お飾り的人物
西郷の征韓論をまとめきれず「**卒倒**」したため、
政治的な手腕がないとされた

1872明治05年以降 小三郎の実行計画(後半戦)が開始

1872明治05年(27歳) 備前屋の養嗣となり、太田小三郎と改称・・・地元に根付く？

1876明治09年(31歳) 学習討論の結社「交修社」を創設・・・友人(協力者)を作る

1885明治18年(40歳) (前後?) 備前屋の家盛挽回・・・主家に義理を果たす

1885明治18年(40歳) 製紙兼活版印刷業「殖産組」創業・・・お祓い大麻の材料確保

1886明治19年(41歳) 「神苑会」結成・・・神苑の環境整備

1893明治26年(48歳) 「参宮鉄道(株)」設立・・・全国からの参詣の足を確保→国有化

1894明治27年(49歳) 「山田銀行(株)」開業・・・地元産業の育成

1896明治29年(51歳) 「宮川電気(株)」創業・・・両宮間の足を確保→「伊勢電気鉄道(株)」

1911明治44年(66歳) 「神苑会」解散

1916大正05年(71歳) 備前屋主人 兼 「伊勢電気鉄道(株)」社長として死亡

前回の実績編でお話した通りです

実美逝去後25年 1916大正05年 太田小三郎 没 71歳

備前屋主人 兼 伊勢電気鉄道(株)社長として天寿を全うした



久世戸墓地 妻くに 小三郎 光熙(養嗣)

1874明治7年 光熙 みつひろ 山口県で大庭景明四男として誕生 翌8年、子がなかった小三郎の養嗣となる
小三郎の遺志を継承して 大正7年 伊勢電気鉄道(宮川電気)社長就任 大正14年 京阪電鉄社長を兼務

(完)

ご静聴ありがとうございました

謝 辞

郷土史研究家 飯 田 良 樹 氏
伊勢郷土史研究家 山 田 修 司 氏 (ブログ「いにしえの伊勢」)
伊勢志摩さいこう会 飯 田 ヨ シ 子 氏
には、資料の提供、ならびに、ご指導をいただきました

参 考 文 献

「神苑会と宇治山田 -近代的聖地の形成をめぐって-」 ジョン・グリーン
伊勢神宮の近現代史「神都物語」 ジョン・グリーン、神都計画とその背景 阿形次基
伊勢度会人物誌、神都名家集、宇治山田市史、最新 伊勢市史、
幕末秘史 英彦山殉難録、勢伊志紀顔見評判記:諸名士大一座 Wikipedia コトバンク
昭和61年 ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 伊勢 二見 小俣 (株)国書刊行会
平成4年 図説 伊勢・志摩歴史<下巻> (株)郷土出版社
平成2年 目で見る 伊勢・志摩の100年 (株)郷土出版社 ほか